

ワッセルマン氏、ザックスゲオルギー氏及兒玉氏ノ 黴毒血清診断法ノ比較

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30762

ワッセルマン氏、ザックスゲオルギー氏及兒玉氏ノ 微毒血清診斷法ノ比較

金澤醫學專門學校細菌學教室

柴野順吾

ワッセルマン氏反應試驗ノ微毒患者ノ診斷及其治療ヲ行ヒタル者ノ豫後ノ判定ニ缺ク可カラザルモノナルコトハ世人ノ已ニ知ル所ナリト雖モ其ノ反應試驗法ハ煩雜ニシテ多忙ナル臨牀醫家ニハ實行シ得ズ、タマタマ微毒患者ノ血液ヲ採取スルモ其ノ検査ハ相當設備アル病院又ハ研究所等ニ託セザルベカラザルガ如キ其ノ不便ハ臨牀醫家ノ常ニ遺憾トスル所ナリ。

於是多數學者ハ比較的簡單ニ診療ノ間ニモ實施シ得テワッセルマン氏法ニ相當スル試驗成績ヲ得ベキ諸種ノ所謂微毒血清簡易診斷法ヲ案出セリ。

現今微毒血清簡易診斷法トシテ世ニ行ハル、モノニハ其ノ原理種々アレ共特ニ沈降反應ヲ應用セルモノニハミハイリス氏法、ボルゲスマイエ氏法、照内氏法、クラスネル氏法、マイニツケ氏法、ザックスゲオルギー氏法、兒玉氏法及ビ其他類似ノ方法續々發表セラレタリ、此ノ沈降法ヲ應用スル場合ニワッセルマン氏法ニ相當スル成績ヲ得タリシニハ簡單ニ微毒ヲ診斷シ得テ吾人ノ利益蓋シ些少アラザルナリ。

然レ共其等沈降法ノ價值即ワッセルマン氏法ト一致スル成績ヲ得ルヤ否ヤノ世評及其等ノ中何レノ方法ヲ最良トシテ採用スベキヤハ未ダ必ズシモ定マラズシテ又多數學者ノ再試複試或ハ比較試驗ニ俟タザルベカラズ。

即チ余ハ沈降法中殊ニザックスゲオルギー氏法及兒玉氏法ニ興味ヲ持チ其等ノ價值及ビ優劣ヲ比較センタメ本研究

原著 柴野トワツセルマン氏、ザックスゲオルギー氏及兒玉氏ノ微毒血清診断法ノ比較

一四一

試	二〇	三一	四三	二	九	五	六	一	二	一	一	一	一	三	五二〇
驗															
數															四

反應一致セズシテ兒玉氏反應ガザ氏反應ヨリモ陽性ノ方ヘ強ク表レタルモノ 三三

反應一致セズシテ先ノ場合ノ逆ニ表レタルモノ 五

全然一致スルモノ 一六六

強度異ナルモ陽性トシテ一致スルモノ 二二

一致スルモノ 一八八(合致率九二%)

第五表

一、ワツセルマン氏反應(柴野)	卅	十	士	一	卅	卅	十	十	一	卅	十	士	一	卅	一	計
二、ワツセルマン氏反應(皮膚科)	卅	十	士	一	卅	卅	十	十	一	卅	十	士	一	卅	一	合
試驗數	二〇	一	二	一〇	八	四	二	五	三	一	一	四	九	一	二	九二〇

全然一致スルモノ

一三〇

強度異ナルモ陽性トシテ一致スルモノ 一五

一致スルモノ 一四五(合致率七二%)

第二、第三、第四表ニヨリテ余ノ行ヒタルワツセルマン氏反應、ザックスゲオルギー氏反應及兒玉氏反應ハ其ノ試驗成績相互ニヨリ一致スルコトヲ知ルベク其ノ合致率ハワツセルマン氏反應對ザックスゲオルギー氏反應ニ於テハ九四%、ワツセルマン氏反應對兒玉氏反應ニ於テハ九二%ナ

リ。

内外ノ文獻ニ見ルニワ氏反應對ザ氏反應ノ合致率ハ九八%乃至八九%ニシテ余ノ得タルワ氏反應對ザ氏反應合致率ハ其ノ中位ニ屬シワ氏反應對兒玉氏反應ノ合致率其ニ全ク一致シザ氏反應對兒玉氏反應ノ合致率又略一致スルナリ。是ヲ以テ見レバザ氏法及兒玉氏法ハ其ニワ氏法ニ比シ甚シキ遜色ナク微毒血清診斷法トシテ價値アリト云フベキナリ。

然リ而シテ第一表ニ於テ一、二、三、ガ其等ノ成績相互ヨリ一致スルニカ、ハラズ四、ハ其他ノイヅレトモ一致スルコトナク獨リ隔絶セル成績ヲ示シ又第五表ニ於テ余ノ自カラ行ヒテ得タル成績ト皮膚科教室ニ於ケル成績トハ其ノ合致甚ダ宜シカラザルヲ知ル。

コノ相違ヲ來タスハ特ニ本研究ノ場合ニハ検査時ノ相違即チ可檢血清ノ貯藏時日經過ニヨリ變化ヲ來セルニヨルトモ思ハレザルニアラザルモ寧ロワ氏反應試驗法ノ煩雜ナルタメ種々ノ場合ニ誤謬ヲ來シ易キニ原由スルト云フヲ得ベク其ノ主因ニツキテノ確説ハナキモ試驗者ノ相違ニヨリテ成績ニ多少ノ差異ヲ來スコトハ學者ノ已ニ認ムル所ナリ。コノ事實ハワ氏法ノ缺點ナルニ反シテザ氏法及兒玉氏法ハ前述ノ如クイヅレモ其ノ成績ワ氏法ニ比シ又相互ニ略一致シテ且其ノ操作簡單ナルダケ其ダケ誤謬ヲ來スコト少カルベキノ利アリ。

次ニザ氏反應ト兒玉氏反應トハ夫々ワ氏反應ニ對スル合致率及全然一致スル率共ニ全ク同ジク其ノ價値ノ優劣ハ決定スル能ハズ。

第四表ヨリ兒玉氏反應ハザ氏反應ニ比シテ一般ニ陽性ノ方ニ強ク表ハル、ノ差異著明ナルモ第一表及其他ヨリワ氏反應ノ陽性率及ビ其ノ強度ハ兒玉氏反應トザ氏反應トノ中間ニ位スルニヨリテ却ツテコ、ニワ氏反應ハ誤謬ナク行ハルレバ最モ正當ナル成績ヲ示スモノナルベキヲ思ハシムルモザ氏反應成績ト兒玉氏反應成績トハ其ノイヅレガ正當ナリヤハ斷定シ難ク唯試驗成績ニツキテ考察スル場合兒玉氏反應ハ陽性強度大ニシテザ氏反應ハ其ノ小ナル事ヲ常ニ念

頭ニ置クヲ要スルナリ。

斯クノ斯クザ氏反應ト兒玉氏反應トハ其ノ價值ニハ差異ナキモ其ノ試驗實施ニ當リ兒玉氏法ハ所要設備及操作ザ氏法ニ比シテ更ニヨリ簡單ニシテ且ツヨリ短時間(ザ氏法ハ一晝夜兒玉氏法ハ二時間)ニ其ノ成績ヲ知り得ルコトニ於テ兒玉氏法ハ多忙ナル實地臨牀醫家ニモ好適スル微毒血清診断法トシテ推獎シ得ルモノナリ。

總 括

- 一、微毒血清診断法トシテツッセルマン氏法ハ最モ正當ナル成績ヲ示スベキモ試驗者ノ相違ニヨリテ其ノ成績ニ多少ノ差異ヲ見ルコトアリ。
- 二、ザツクスゲオルギー氏法及兒玉氏法ハツッセルマン氏法ト夫々其ノ成績一致ス。
- 三、ザツクスゲオルギー氏反應ト兒玉氏反應トハ其價值ノ優劣ハ決定シ得ズ。
- 四、實地醫家ニハ所要設備及操作最簡單ニシテ且ツ短時間ニ成績ヲ知り得ル兒玉氏法ヲ推獎ス。

御指導ヲ辱フセル恩師兒玉教授及材料ヲ割讓セラレタル皮膚科教室ノ土肥教授其他諸兄ニ感謝ス。